

記者発表（資料配布）				
月／日 （曜日）	担当部署名	電話番号 （ダイヤルイン）	発表者名 （担当名）	その他配布先
3／11 （水） 14:00	県立考古博物館 企画広報課	(079)437-5589	事業部長 高瀬 一嘉 （学芸課長 中村 弘）	東播磨県民局

播磨大中国古代の村リニューアル記念 特別展

「弥生時代って知ってる？－2,000年前のひょうごー」の開催について

兵庫県立考古博物館では、令和2年4月18日（土）～7月5日（日）の会期で、特別展「弥生時代って知ってる？－2,000年前のひょうごー」を開催します。

近年の研究の進展により、弥生時代は、1,000年以上の長い時代であったといわれています。大陸との交流を背景に水田稲作や金属の使用がはじまり、ムラからクニへと、現在の暮らしの元となる大きな社会の変化が起こった時代です。

本展では、歴史を学ぶ子どもたちを含めた幅広い年齢層にも興味をもてるよう、弥生時代の様々なトピックをわかりやすく紹介します。

※特別展の詳細については、別添の特別展のみどころ及びチラシのとおり

開会式及び内覧会

日 時 令和2年4月17日（金曜日）午後3時から
場 所 兵庫県立考古博物館メインホール

播磨大中国古代の村リニューアル記念 特別展
「弥生時代って知ってる？—2,000年前のひょうご—」のみどころ

近年の研究の進展により、弥生時代は、1,000年以上の長い時代であったといわれています。大陸との交流を背景に水田稲作や金属の使用がはじまり、ムラからクニへと、現在の暮らしの元となる大きな社会の変化が起こった時代です。

本展では、歴史を学ぶ子どもたちを含めた幅広い年齢層にも興味をもてるよう、弥生時代の様々なトピックをわかりやすく紹介します。

会 期 令和2年4月18日（土）～7月5日（日）

時 間 午前9時30分～午後6時（入場は午後5時30分まで）

主 催 兵庫県立考古博物館

後 援 兵庫県 兵庫県教育委員会 NHK神戸放送局 サンテレビジョン ラジオ関西

協 力 (公財)兵庫県まちづくり技術センター 山陽電気鉄道株式会社 ひょうご考古楽倶楽部

《展示構成》

1 縄文から弥生へ

縄文土器と弥生土器、石器や木製品などの比較を通して、縄文時代と弥生時代の違いについて考えます。

2 大陸から伝わったもの

弥生時代には大陸から、稲作のほか青銅器や鉄器などの金属が伝わりました。大陸産の武器や祭器、またそれらに影響をうけた兵庫県の資料についても紹介します。

3 マツリの様子

弥生時代には米の豊穰を願うマツリが行われ、銅鐸などの青銅器が使われたと考えられています。兵庫県内でみつけた様々なマツリの道具を紹介します。

4 弥生人の暮らし

弥生時代の人々はどのような暮らしをしていたのでしょうか。土器や石器などの生活の道具を展示し、弥生ムラの生活について考えます。

5 弥生時代から古墳時代へ～ムラからクニへ

米づくりが安定し人口が増えると土地や水など様々な争いを経て、ムラからクニへ大きなまとまりを生んだと考えられています。ここでは、弥生時代の終わりのクニの姿として、国内最大の環濠集落である吉野ヶ里遺跡を紹介し、同時代の兵庫県の状況についても考えます。

《おすすめの展示品》

金印「漢委奴国王」（原品 国宝）福岡県志賀島出土（福岡市博物館蔵）展示は複製品

把頭飾付有柄細形銅剣（重要文化財）佐賀県吉野ヶ里遺跡出土（文化庁蔵）

望塚銅鐸 加古川市出土（兵庫県立考古博物館蔵）

◆講演会（参加費無料） 開催時間：13:30～15:00（12:00開場）定員：120人 場所：当館講堂

5月16日（土）「発掘でわかったひょうごの弥生時代」

多賀 茂治（公財）兵庫県まちづくり技術センター課長

5月30日（土）「ニッポンの原動力、弥生農耕を探る」

上田 健太郎（当館学芸員）

◆シンポジウム（参加費無料）開催時間：13:30～16:30（12:00開場）定員：150人

場所：当館講堂 往復はがきにより受付

6月13日（土）「ひょうごの高地性集落と鉄器群」

石野 博信（当館名誉館長） 森岡 秀人（関西大学大学院非常勤講師）

禰亘田 佳男（大阪府立弥生文化博物館長）

◆関連イベント

・ゴールデンウィークイベント「弥生に触れる」当日受付

日替わりで、本物の土器や石器に触れるどなたでも参加できるイベントです。

日時：5月4日（月）～6日（水） 13:30～15:00

・体験講座「金印をつくって、手紙を出そう」※要予約

日時：5月23日（土）13:30～15:30 定員：6人 参加費：1,000円 対象：小学4年生以上

・遺跡ウォーク「赤穂市・有年の遺跡散策」※要予約

（ひょうご考古楽クラブ（当館ボランティア）主催）

日時：6月6日（土）10:40～15:30 定員：25人 参加費：500円 対象：中学生以上

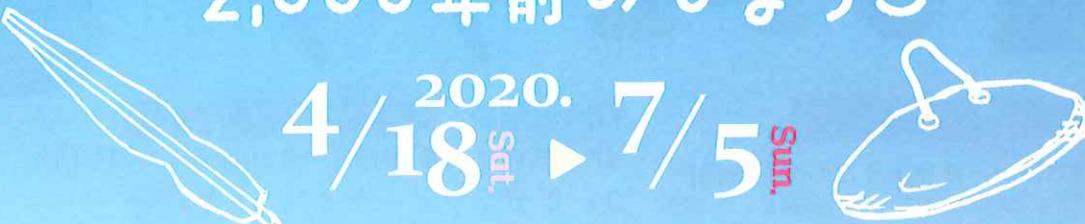
※特別展の詳細及びイベントなどについてはチラシをご覧ください。

播磨大中国古代の村リニューアル記念 特別展



弥生時代って知ってる？

—2,000年前のひょうご—



4/18^{Sat.} 2020. ▶ 7/5^{Sun.}



| 観覧時間 | 午前9時30分～午後6時(有料ゾーンへの入場は午後5時30分まで)
| 休館日 | 月曜日 ※祝休日の場合翌平日
| 観覧料 | 大人: 500 (400) 円 | 大学生: 400 (300) 円 | 高校生以下無料
※()は20名以上の団体料金 ※障害者手帳提示で本人は75%減免、介助者1名まで無料※70歳以上の方は大人料金の半額
| 主催 | 兵庫県立考古博物館 | 後援 | 兵庫県/兵庫県教育委員会/NHK神戸放送局/サンテレビジョン/ラジオ関西
| 協力 | (公財)兵庫県まちづくり技術センター/山陽電気鉄道株式会社/ひょうご考古楽倶楽部

触れる・体感する、考古学のワンダーランド。
兵庫県立考古博物館
Hyogo Prefectural Museum of Archaeology



近年の研究の進展により、弥生時代は、1,000年以上の長い時代であったといわれています。大陸との交流を背景に水田稲作や金属の使用がはじまり、ムラからクニへと、現在のくらしの元となる大きな社会の変化が起こった時代です。本展では歴史を学ぶこともたちを含めた幅広い年齢層にも興味もてるよう、弥生時代の様々なトピックをわかりやすく紹介します。

播磨大中時代の村リニューアル記念
特別展

弥生時代って知ってる？

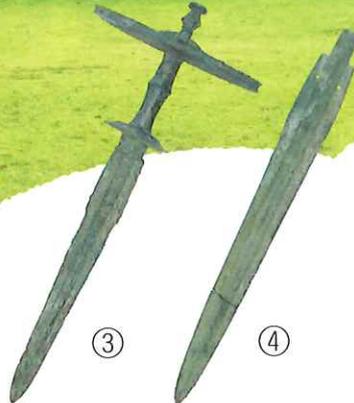
—2,000年前のひょうご—
4/18²⁰²⁰ ▶ 7/5



①
(展示は複製品)



②



③

④



⑤

講演会

当日受付 13:30 ~ 15:00 (12:00 開場)
先着順 当館講堂 [無料] 定員 120名

- 5月16日(土) 『発掘でわかったひょうごの弥生時代』
多賀 茂治 ((公財)兵庫県まちづくり技術センター課長)
- 5月30日(土) 『ニッポンの原動力、弥生農耕を探る』
上田 健太郎 (当館学芸員)

シンポジウム

要予約 《往復はがきでお申込み受付》
※申込み方法 13:30 ~ 16:30 (12:00 開場)
詳しくは当館HPまで 当館講堂 [無料] 定員 150名 ※応募多数の場合抽選

- 6月13日(土) シンポジウム
『ひょうごの高地性集落と鉄器群』
『六甲おろし』にのった銅鐸・銅戈群と弥生山城』
石野 博信 (当館名誉館長)
『高地性集落の役割と多様性—山の民・海の民・里の民・市の民・鉄の民—』
森岡 秀人 (関西大学大学院非常勤講師)
『ここまでわかった!? 弥生の高地性集落』
禰宜田 佳男 (大阪府立弥生文化博物館長) ※講演順

特別展解説

当日受付 13:30 ~ 14:00

4月25日(土)・5月9日(土)・6月20日(土)・7月4日(土)

ゴールデンウィークイベント

当日受付

日替わりで、本物の弥生時代の土器や石器に触れるイベントです。

5月4日(月) ~ 『弥生に触れる』

5月6日(水) 時間: 13:30 ~ 15:00 料金: 無料 対象: どなたでも

関連イベント

要予約 《往復はがきでお申込み受付》 抽選

(※定員に満たない場合は、1週間前まで電話でも受け付けます ☎079-437-5564 (学習支援課))

5月23日(土) 体験講座 『金印をつかって、手紙を出そう』

金属で金印をつくり、本来の使い方の手紙に封をします。

受付開始 4月4日(土) ~ 応募〆切 4月25日(土) 必着
時間: 13:30 ~ 15:30 定員: 6名 料金: 1000円 対象: 小学4年生以上 (小学生は保護者同伴)

当館ボランティアによる遺跡ウォーク ※ひょうご考古楽倶楽部主催

6月6日(土) 『赤穂市・有年の遺跡散策』

受付開始 4月7日(火) ~ 応募〆切 5月9日(土) 必着
時間: 10:40 ~ 15:30 定員: 25名 料金: 500円 対象: 中学生以上

申し込み方法 ●往復はがき下記の内容を記入して当館学習支援課宛てでお送りください。 ※詳しくは当館HPまで ●抽選の結果を返信はがきでお知らせいたします。

■ 講座開催日・講座名 ■ 住所(代表者) ■ 氏名・年齢(全員分・4名まで) ■ 電話番号(当日連絡のつく番号)



アクセス

電車 | JR 土山駅南口から「であいのみち」を徒歩15分
山陽電車播磨町駅から喜瀬川に沿って徒歩25分
車 | 第2神明・加古川バイパス明石西ICから約3km
※博物館に駐車場はありません。できるだけ公共交通機関をご利用ください。周辺には播磨町大中遺跡公園駐車場(64台/有料)と播磨町野添であい公園駐車場(50台/有料)があります。

触れる・体感する。考古学のワンダーランド。
兵庫県立考古博物館
Hyogo Prefectural Museum of Archaeology

〒675-0142 加古郡播磨町大中 1-1-1

電話 | 079-437-5589

H P | <http://www.hyogo-koukohaku.jp/>



ひょうご考古楽倶楽部の 創作紙芝居上演

期間中の日曜日 13:00 ~ 13:20

- ①金印「漢委奴国王」展示は複製品 (福岡県志賀島) 原品国宝 福岡市博物館蔵
- ②祭祀土器 (佐賀県吉野ヶ里遺跡) 佐賀県蔵
- ③把頭飾付有柄細形銅剣 (佐賀県吉野ヶ里遺跡) 国重要文化財 文化庁蔵
- ④古津路銅剣 (南あわじ市) 兵庫県指定文化財 当館蔵
- ⑤望塚銅鐸 (加古川市) 当館蔵

播磨大中国古代の村リニューアル記念 特別展
「弥生時代って知ってる？—2,000年前のひょうご—」のみどころ

近年の研究の進展により、弥生時代は、1,000年以上の長い時代であったといわれています。大陸との交流を背景に水田稲作や金属の使用がはじまり、ムラからクニへと、現在の暮らしの元となる大きな社会の変化が起こった時代です。

本展では、歴史を学ぶ子どもたちを含めた幅広い年齢層にも興味をもてるよう、弥生時代の様々なトピックをわかりやすく紹介します。

会 期 令和2年4月18日（土）～7月5日（日）

時 間 午前9時30分～午後6時（入場は午後5時30分まで）

主 催 兵庫県立考古博物館

後 援 兵庫県 兵庫県教育委員会 NHK神戸放送局 サンテレビジョン ラジオ関西

協 力 (公財)兵庫県まちづくり技術センター 山陽電気鉄道株式会社 ひょうご考古楽倶楽部

《展示構成》

1 縄文から弥生へ

縄文土器と弥生土器、石器や木製品などの比較を通して、縄文時代と弥生時代の違いについて考えます。

2 大陸から伝わったもの

弥生時代には大陸から、稲作のほか青銅器や鉄器などの金属が伝わりました。大陸産の武器や祭器、またそれらに影響をうけた兵庫県の資料についても紹介します。

3 マツリの様子

弥生時代には米の豊穰を願うマツリが行われ、銅鐸などの青銅器が使われたと考えられています。兵庫県内で見つかった様々なマツリの道具を紹介します。

4 弥生人の暮らし

弥生時代の人々はどのような暮らしをしていたのでしょうか。土器や石器などの生活の道具を展示し、弥生ムラの生活について考えます。

5 弥生時代から古墳時代へ～ムラからクニへ

米づくりが安定し人口が増えると土地や水など様々な争いを経て、ムラからクニへ大きなまとまりを生んだと考えられています。ここでは、弥生時代の終わりのクニの姿として、国内最大の環濠集落である吉野ヶ里遺跡を紹介し、同時代の兵庫県の状況についても考えます。

《おすすめの展示品》

金印「漢委奴国王」（原品 国宝）福岡県志賀島出土（福岡市博物館蔵）展示は複製品

把頭飾付有柄細形銅剣（重要文化財）佐賀県吉野ヶ里遺跡出土（文化庁蔵）

望塚銅鐸 加古川市出土（兵庫県立考古博物館蔵）

◆講演会（参加費無料） 開催時間：13:30～15:00（12:00開場）定員：120人 場所：当館講堂

5月16日（土）「発掘でわかったひょうごの弥生時代」

多賀 茂治（公財）兵庫県まちづくり技術センター課長

5月30日（土）「ニッポンの原動力、弥生農耕を探る」

上田 健太郎（当館学芸員）

◆シンポジウム（参加費無料）開催時間：13:30～16:30（12:00開場）定員：150人

場所：当館講堂 往復はがきにより受付

6月13日（土）「ひょうごの高地性集落と鉄器群」

石野 博信（当館名誉館長） 森岡 秀人（関西大学大学院非常勤講師）

禰宜田 佳男（大阪府立弥生文化博物館長）

◆関連イベント

- ・ゴールデンウィークイベント「弥生に触れる」当日受付
日替わりで、本物の土器や石器に触れるどなたでも参加できるイベントです。

日時：5月4日（月）～6日（水） 13:30～15:00

- ・体験講座「金印をつくって、手紙を出そう」※要予約

日時：5月23日（土）13:30～15:30 定員：6人 参加費：1,000円 対象：小学4年生以上

- ・遺跡ウォーク「赤穂市・有年の遺跡散策」※要予約

（ひょうご考古楽クラブ（当館ボランティア）主催）

日時：6月6日（土）10:40～15:30 定員：25人 参加費：500円 対象：中学生以上

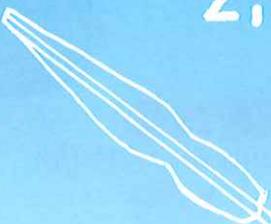
※特別展の詳細及びイベントなどについてはチラシをご覧ください。

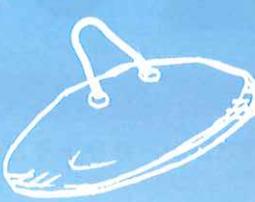
播磨大中国古代の村リニューアル記念 特別展



弥生時代って知ってる？

—2,000年前のひょうご—



4/18^{Sat.} 2020. ▶ 7/5^{Sun.} 



| 観覧時間 | 午前9時30分～午後6時(有料ゾーンへの入場は午後5時30分まで)
| 休館日 | 月曜日 ※祝休日の場合翌平日
| 観覧料 | 大人: 500 (400) 円 | 大学生: 400 (300) 円 | 高校生以下無料
※()は20名以上の団体料金 ※障害者手帳提示で本人は75%減免、介助者1名まで無料※70歳以上の方は大人料金の半額
| 主催 | 兵庫県立考古博物館 | 後援 | 兵庫県/兵庫県教育委員会/NHK神戸放送局/サンテレビジョン/ラジオ関西
| 協力 | (公財)兵庫県まちづくり技術センター/山陽電気鉄道株式会社/ひょうご考古楽倶楽部

触れる・体感する、考古学のワンダーランド。
兵庫県立考古博物館
Hyogo Prefectural Museum of Archaeology



近年の研究の進展により、弥生時代は、1,000年以上の長い時代であったといわれています。大陸との交流を背景に水田稲作や金属の使用がはじまり、ムラからクニへと、現在のくらしの元となる大きな社会の変化が起こった時代です。本展では歴史を学ぶこともたちを含めた幅広い年齢層にも興味もてるよう、弥生時代の様々なトピックをわかりやすく紹介します。

播磨大中時代の村リニューアル記念
特別展

弥生時代って知ってる？

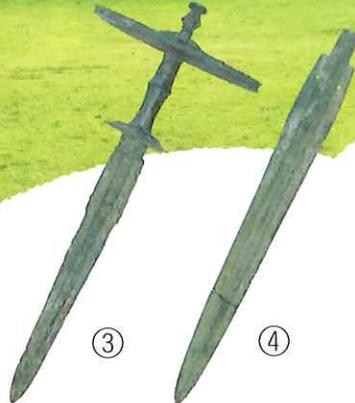
—2,000年前のひょうご—
4/18²⁰²⁰ ▶ 7/5²⁰



①
(展示は複製品)



②



③

④



⑤

講演会

当日受付 13:30 ~ 15:00 (12:00 開場)
先着順 当館講堂 [無料] 定員 120名

- 5月16日(土) 【発掘でわかったひょうごの弥生時代】
多賀 茂治 ((公財)兵庫県まちづくり技術センター課長)
- 5月30日(土) 【ニッポンの原動力、弥生農耕を探る】
上田 健太郎 (当館学芸員)

シンポジウム

※申込み方法
詳しくは当館HPまで

要予約 《往復はがきでお申込み受付》
13:30 ~ 16:30 (12:00 開場)
当館講堂 [無料] 定員 150名 ※応募多数の場合抽選

- 6月13日(土) シンポジウム
『ひょうごの高地性集落と鉄器群』
『“六甲おろし”にのった銅鐸・銅戈群と弥生山城』
石野 博信 (当館名誉館長)
- 『高地性集落の役割と多様性—山の民・海の民・里の民・市の民・鉄の民—』
森岡 秀人 (関西大学大学院非常勤講師)
- 『ここまでわかった!? 弥生の高地性集落』
禰宜田 佳男 (大阪府立弥生文化博物館長) ※講演順

特別展解説

当日受付 13:30 ~ 14:00

4月25日(土)・5月9日(土)・6月20日(土)・7月4日(土)

ゴールデンウィークイベント

当日受付

日替わりで、本物の弥生時代の土器や石器に触れるイベントです。

5月4日(月) ~ 『弥生に触れる』

5月6日(水) 時間: 13:30 ~ 15:00 料金: 無料 対象: どなたでも

関連イベント

要予約 《往復はがきでお申込み受付》 抽選

(※定員に満たない場合は、1週間前まで電話でも受け付けます ☎079-437-5564 (学習支援課))

5月23日(土) 体験講座 『金印をつかって、手紙を出そう!』

金属で金印をつくり、本来の使い方の手紙に封をします。

受付開始 4月4日(土) ~ 応募〆切 4月25日(土) 必着
時間: 13:30 ~ 15:30 定員: 6名 料金: 1000円 対象: 小学4年生以上 (小学生は保護者同伴)

当館ボランティアによる遺跡ウォーク ※ひょうご考古楽倶楽部主催

6月6日(土) 『赤穂市・有年の遺跡散策』

受付開始 4月7日(火) ~ 応募〆切 5月9日(土) 必着
時間: 10:40 ~ 15:30 定員: 25名 料金: 500円 対象: 中学生以上

申し込み方法 ●往復はがき下記の内容を記入して当館学習支援課宛てでお送りください。 ※詳しくは当館HPまで ●抽選の結果を返信はがきでお知らせいたします。

■ 講座開催日・講座名 ■ 住所(代表者) ■ 氏名・年齢(全員分・4名まで) ■ 電話番号(当日連絡のつく番号)



アクセス

電車 | JR 土山駅南口から「であいのみち」を徒歩15分
・山陽電車播磨町駅から喜瀬川に沿って徒歩25分
車 | 第2神明・加古川バイパス明石西ICから約3km
※博物館に駐車場はありません。できるだけ公共交通機関をご利用ください。周辺には播磨町大中遺跡公園駐車場(64台/有料)と播磨町野添であい公園駐車場(50台/有料)があります。

触れる・体感する。考古学のワンダーランド。
兵庫県立考古博物館
Hyogo Prefectural Museum of Archaeology

〒675-0142 加古郡播磨町大中 1-1-1

電話 | 079-437-5589

H P | <http://www.hyogo-koukohaku.jp/>



ひょうご考古楽倶楽部の 創作紙芝居上演

期間中の日曜日 13:00 ~ 13:20

- ①金印「漢委奴国王」展示は複製品 (福岡県志賀島) 原品国宝 福岡市博物館蔵
- ②祭祀土器 (佐賀県吉野ヶ里遺跡) 佐賀県蔵
- ③把頭飾付有柄細形銅剣 (佐賀県吉野ヶ里遺跡) 国重要文化財 文化庁蔵
- ④古津路銅剣 (南あわじ市) 兵庫県指定文化財 当館蔵
- ⑤望塚銅鐸 (加古川市) 当館蔵